

## 社長メッセージ 「全国安全週間にあたって」

皆さん、日頃から安全作業にご協力いただき、誠にありがとうございます。

7月1日から、令和8年度の全国安全週間が始まります。今年で第99回目を迎える全国安全週間のスローガンは、

**「多様な人材 全員参加 みんなで育てる安全職場」** です。

近年の建設業界では、深刻な人手不足が続いています。若年入職者の減少に加え、高年齢労働者、外国人労働者、女性技能者など、多様な人材の力が現場を支える時代となっています。また、中東情勢など世界的な影響による資材不足や価格高騰、工期への影響など、建設業を取り巻く環境は大きく変化しています。

こうした状況の中では、一人ひとりにかかる負担が増えやすく、無理な作業や焦りによる労働災害の発生も懸念されます。そのため、これまで以上に「安全を優先する職場づくり」が重要となっています。

昨年の労働災害統計では、建設業の死亡災害は214人、死傷災害は13,437人となりました。いずれも前年より減少しましたが、依然として多くの仲間が被災している現実があります。岩手県内の建設業では、死亡災害は0人でしたが、死傷災害は177人発生しており、ゼロ災害という目標にはまだ届いていません。

近年は、高年齢労働者の災害が増加しています。経験豊富なベテランの存在は現場に欠かせませんが、その一方で、加齢による体力や身体機能の変化を踏まえた安全配慮が必要です。さらに、これから本格的な夏を迎えるにあたり、熱中症対策は極めて重要となります。今年も厳しい暑さが予測されます。近年の猛暑は、これまでの経験や常識が通用しないレベルとなっています。特に、人手不足による作業負担の増加や、高年齢労働者の増加は、熱中症リスクをさらに高める要因となります。熱中症は、予防対策を行っていても完全に防ぐことは難しい災害です。そのため、発症防止対策に加えて、**異常を早く発見し、重症化させない対応**が重要となります。こまめな水分・塩分補給、適切な休憩、無理をさせない作業計画はもちろんのこと、顔色や体調の変化に気付き、互いに声を掛け合える職場づくりが必要です。安全は、一人では守れません。現場に関わる全員が参加し、互いを気遣いながら支え合うことで、安全な職場は築かれていきます。

全国安全週間を契機として、改めて安全の重要性を全員で再確認し、「災害ゼロ」の達成に向けて、全員参加で安全活動に取り組んでいきましょう。

簡単ではありますが、私からのメッセージといたします。

令和八年六月二六日

豊島建設株式会社

代表取締役 紀室 裕哉